

アマチュア 『疑心暗鬼』

プロとアマチュアの違いは、
自然を見方に付けたか、敵にまわしたか。

パヴェーゴルフ
VALUE GOLF
www.valuegolf.co.jp

『韓国勢の勢いが止まらない!』

全米女子オープン（7月13日～16日／ニュージャージー州）が閉幕した。会場は、トランプ氏が大統領就任までオーナーを務めていたトランプナショナルGCベドミンスター。トランプ大統領も観戦するなど、賑わいを見せていたが、やはり注目は、今季で引退を表明している宮里藍選手である。結果は、通算4オーバーの41位タイで試合を終えた。中学時代からあこがれた大舞台での優勝は実現できなかったが、「年々レベルが上がってきている中で、最後の年に4日間戦えたのは良かった」とすがすがしい表情をみせていたのが印象的だった。

今回の全米オープン、韓国勢の勢いがとにかく凄かった。優勝は、韓国の23歳ルーキー、パク・ソンヒョン。そして、上位20位までの12人が韓国勢である。国を挙げてジュニアを育成している成果が出た結果となった。

神戸新聞NEXTの記事に、面白い数字を見つけた。神戸税関のまとめによると、神戸港から2016年に輸出されたゴルフクラブが61万8千本に上り、4年連続で過去最多を更新したそうだ。

「神戸港からの輸出本数は、リーマン・ショックの影響で09年に前年比33・7%減の24万5千本に落ち込んだが、13年にリーマン前の最高本数を塗り替えた。その後も順調に増え、16年は前年比0・4%増」。同税関の調べでは、16年に神戸港から輸出されたクラブのうちなんと53・6%が韓国向け。韓国のゴルフ用品市場は世界で米国、日本に次ぐ3位の規模で、有名プロゴルファーの活躍などで愛好者の裾野が広がっている。「日本人と体格が似ていることもあって日本製クラブの人気が高い」（担当者）ということだそう。

宮里選手も言っているように、韓国は今、国を挙げて選手を育成している。どんなスポーツもそうであるが、強い選手が出てくると、自ずとそのスポーツ熱は高まる傾向にある。日本のゴルフ人口が減少する中、韓国で高まる「ゴルフ熱」が日本のゴルフメーカーに恩恵を与え、逆に日本のゴルフメーカーが、韓国の強い選手を生み出すために一役買っているのかもしれない。



戸張 捷 Sho Tobaru

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業（現SRIスポーツ）に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデュース、コンサルティングなども手掛けている。